

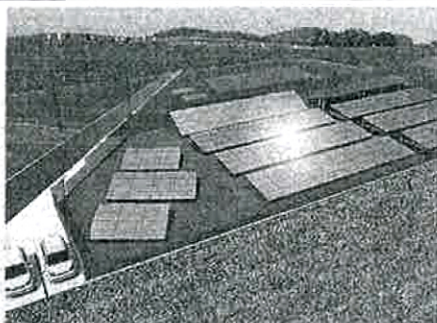
太陽光発電所を設置・運営

亀井組 風力発電設備も受注

建設会社の亀井組(徳島県鳴門市)は太陽光発電などの環境エネルギー関連事業を強化する。徳島県阿波市で7月から、太陽光発電所の運営を始める。電気機械器具製造の日立パワソリユージョンズ(茨城県日立市)と協力し、風力発電設備の受注活動も始めた。2015年9月期には環境関連事業を売上高の約2割に増やすことを目指す。

環境エネ 売上高の2割に

1月に設立したハローグリーンエナジー(徳島市)を通じて、太陽光発電



太陽光発電の効率を検証する試験設備(徳島県鳴門市、完成予想図)



徳島県内に太陽光発電所や試験設備を設置する

所の設置、運営をする。新会社の資本金は2000万円、亀井組と不動産開発のH I Kコーポレーション(大津市)がそれぞれ5割出資した。阿波市内の私有地約8000平方メートルを賃借し、出力450キロワットの太陽光発電所を今月着工する。投資額は1億4000万円。固定価格買い取り制度を活用して全量売却し、年間約2000万円の収入を見込む。建設や

維持管理のノウハウの蓄積を進める。今後は西日本地区で出力1000キロワットのメガソーラー(大規模太陽光発電所)事業への参入を検討する。

太陽光発電事業と並行

して、今夏をめどに鳴門市の自社遊休地約1200平方メートルに、太陽光発電の試験設備を造る。太陽光パネルの設置角度やパネルを置く台の工法の違

いなど計11パターンの設備を設け、建設や維持コスト、発電効率を検証する。環境に応じた最適な設置方法などを探り、太陽光発電所の設計や運営に生かす。

風力発電では今年度、徳島県内で発電に適した候補地を選定した上で、参入を検討する事業者に導入を提案する。14年春以降、出力2000キロワットの設備をまずは2〜3機受注することを目指す。亀井組が営業や土木工事を、日立パワソリユージョンズが設備の販売や設置工事を担当する予定だ。亀井組は顧客の事業に参加することも検討する。

ただ同社日本法人は対日事業を従来通り継続するとしており、亀井組は「パネル供給に影響はない」としている。

た。15年9月期には同事業の売上高を6億円程度に増やす計画だ。亀井組は中国の太陽光パネルメーカー大手で事実上経営破綻したサンテックパワーの販売代理店になっ

ていた。

た。15年9月期には同事業の売上高を6億円程度に増やす計画だ。亀井組は中国の太陽光パネルメーカー大手で事実上経営破綻したサンテックパワーの販売代理店になっ